

寓意を詰め取る 2010

今まで国語の時間に学んできたように、「言葉」というのは、表現されていること、わざと表現されていないこと(隠していること)、表現されていることとは違うことなどを伝えられるのである。これは国語の教科書に掲載されている文章だけに限らず、普段我々は当たり前のようにより口等会話の中で使っている。しかし、相手の意図を理解できずに解釈すると、どんなかんな受け答えをしたり、場合によっては人間関係を壊すことになってしまひ。

我々の先人達は伝えたいことをそのまま表さず、「寓話」という形で表現してきた。これは、伝えたいことを何かに置き換えることで追及の手を逃れたり、具体的に書かないことで、むしろ普遍的なものが代々受け継がれるようになることを望んだのだ。いわゆる「昔話」がこれにあたる。

この单元では、「昔話」や「寓話」を読むことによつて、その中に含まれている「寓意」を読み取れるようになることを目指す。

「寓意」 じゆい

【課題】提示された物語を一八〇字程度であらすじを書き、その物語の寓意を一〇〇字程度で表す。

あつとキリギリス 年組番

月 日曜

【ねむかじ】

【フォーマット】次の通り。

見開きページを使用する。

その寓話のタイトルを記す

【あらすじ】と明記し、その物語は実はその裏で、どんな物語か、表してあると読み取れる物語を表していくのを明記する。
（象徴）してあるのを明記する。
（象徴）してあるのを明記する。
（象徴）してあるのを明記する。
（象徴）してあるのを明記する。
（象徴）してあるのを明記する。
（象徴）してあるのを明記する。

【時間】
基本的に1) 2時間に1
の作品を読み、その時間の終つ
わりに提出する。

【評価】
1課題ごとに評価し、学年成績に入れ。欠席を
の場合は後から提出を認める。
(期限は欠席後1週間以内)
基準は内容と表記(文字・原稿用紙の使い方など。)

《例1》ありとキリギリス（イソップ寓話）

【寓意】ありは勤勉な人々を表しており、キリギリスは目の前の楽しみだけを求める人々を表している。目の前の楽しみをだけを求める人ははじめは楽しいが、社会状況が急変すると対応できなくなり、結局は勤勉な人々が生き残っていく。（104字）

《例2》ありとキリギリス

【寓意】ありは仕事をして、裕福になつていく人々（実業家）を表しており、キリギリスは日々練習に励む芸術家を表している。練習し上達した芸術家は、実業家に腕前を披露した。実業家はその音楽に感動し、芸術家にお金を払う。芸術至上主義を伝えている。（114字）

《例3》大きなカブ（ロシア民話）

【寓意】登場人物はみな、互いに仲良く協力し合つている村や共同体の仲間を表している。どんなに難しく困難な問題も、たくさんの人が協力し合つて取り組むことにより、必ず解決するということを表している。（93字）

《例4》大きなカブ

【寓意】はじめに登場するおじいさんは権力者、政治家、大金持ちのような力のある者、最後に登場するネズミは力のない者を表している。力のある者が一人でどんなに頑張つても物事は達成せず、力の小さな者たちの協力がなければ何もできないということを表している。（119字）